

薬用作物産地支援 栽培技術研修 東海・近畿会場

研究実施主体： 薬用作物産地支援協議会  
 受講対象者： 普及指導員、営農指導員、市町村職員、その他薬用作物の産地育成関係者  
 研修目的： 薬用作物の産地形成・栽培技術指導の確立、産地の生産性向上  
 研修実施場所： 武田薬品工業(株) 京都薬用植物園 (京都市左京区一乗寺竹ノ内町11番地)  
 実施時期： 11月11日(木)～11月12日(金)

	時間	研修科目	内容	講師	所属
11月11日(木)	13:20-13:40 (20分)	13:00現地集合 場所：松ヶ崎駅前 (市営地下鉄烏丸線) 移動(バス利用)			
	13:45-15:15 (90分)	[現地研修] 薬用作物栽培について	京都薬用植物園における現地研修で、薬用作物の特徴、品質評価について、今後の支援に必要な知識・技術の理解を深める。	京都薬用植物園スタッフ	武田薬品工業(株) 京都薬用植物園
	15:30-16:30 (60分)	[講義] 薬用作物の実需者ニーズと国内栽培に向けて	製薬企業の薬用作物調達と漢方薬生産の現状、国内産地化に期待する内容について理解する。	花岡 信義	日本漢方生薬製剤協会 生薬国内生産検討班
	16:40-17:00 (20分)	移動(バス利用) →松ヶ崎駅前			
11月12日(金)	8:15-8:40 (25分)	松ヶ崎駅前 →移動(バス利用)	バス利用希望者		
	9:00-10:20 (80分)	[講義] 薬用植物栽培 薬用作物の栽培技術	国内栽培の期待が高い薬用作物の栽培技術について解説する。(ミシマサイコ、シャクヤク、ジュウヤク、トウキ等)	酒井 英二	岐阜薬科大学 薬草園研究室 教授
	10:30-11:20 (50分)	[講義] 甘草の国産化に向けた取り組みについて 3カ所の栽培事例	国内栽培の期待が高いウラルカンソウについて、武田薬品での栽培品種「都1号」の作出、秋田美郷町での栽培種の作出と栽培法の提案、大阪薬科大学での交雑育種による栽培種の作出等について解説する。	尾崎 和男	大阪医科薬科大学 薬学部 臨床漢方薬学研究室 客員研究員
	11:30-12:10 (40分)	[講義] 三重県における薬用作物の取組	三重県における薬用作物栽培の取り組みについて、農林水産省委託「薬用プロ」に参画して得られた成果も併せ紹介する。	小林 泰子	三重県農業研究所 茶業・花植木研究室 花植木研究課 主幹研究員 兼課長
	12:10-13:10	昼休み			
	13:10-14:40 (90分)	[情報交換会] 各地域の薬用作物産地形成における課題と対応	各地域の薬用作物産地形成に向けた課題について情報交換を行うとともに、今後の産地育成支援の進め方を討議する。	講師同席	
	14:40-15:00	閉会	研修に対する評価等についてアンケート調査を実施	事務局	
	15:15-15:35 (20分)	移動(バス利用) →松ヶ崎駅前	バス利用希望者		